

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	命を守る 防災力の 向上	・安心して学校生活を送ることができたと答える児童生徒 100%	・火災や地震などの訓練を年6回実施した。訓練の際は、事前事後学習の時間を設けた。 ・緊急体制訓練他を5回実施した。 ・注入時発災訓練を1回実施した。 ・日常的な安全な環境づくりを行った。 ・安全点検を月に1回実施した。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% 保護者アンケート 98.4% ・事前事後学習を行ったことで、児童生徒が災害について理解を深め、身を守る行動がわかり落ちていて訓練に参加することができた。来年度は訓練の想定（浸水）や内容を変えて異なった状況での訓練を実施する。 ・全体で行う訓練と、小集団での行う机上訓練を行ったことで、より具体的に緊急体制について考えることができた。また、実際に起きた緊急体制の反省点や課題を次年度に生かせるよう検討中である。 ・救命救急講習はより知識を深められるよう、来年度は90分で実施したい。
		・適切な判断と行動で安全に支援することができたと答える教職員 100%	・ヒヤリハット・インシデントの情報共有と速やかな対応策の検討を行った。	A	教職員アンケート 98.7% ・昨年度の反省を活かし、年度初めに起こりやすいインシデントを全体で共有することで、インシデントが減り安全にケアを行うことができた。ケア生が多くなっているため、より安全にケアが行えるように、ケアの統一化を図ることができるよう検討している。また、医療的マニュアルを作成している。

人権を尊重する教育				
イ	子どもの人格と人権を尊重した教育の推進	・安心できる学校生活の中で、友達や教師と関わったり自分や仲間の良さに気付いたりすることができたと答える児童生徒 90%以上)	・各学部学年で月のテーマに沿ってミーティングを行った。結果を掲示板で共有した。 ・いじめ防止委員会にて、主事・主任向けに研修を行った。 ・夏季休業中にスクールロイヤーによる研修を行った。	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% ・縦割り集会や学部集会、授業での関わりを通して、児童生徒がお互いの良さを感ずることができた。 ・教職員人権研修、人権ミーティングを行い、人権意識向上に努めた。人権研修と縦割り集会を継続していきたい。
	A			

(2) 〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力の育成

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上				
ア	自分らしく生きていくための学びや経験を促す系統的・段階的な教育の充実	自分の将来の生活や進路について知ったり、考えたりすることができた児童生徒 90%以上	- 将来の生活、進路に関する出前授業を、高等部で3回、中学部で1回実施した。小学部の、朝の会や授業見学で、児童の自信を高めるような言葉掛けを実施した。 - キャリア発達に関する学習会や施設見学を年3回以上実施した。 - キャリア発達に関する学習会を6・9・10月、施設見学を8月に実施した。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 97.3% - 各学年やコースで児童生徒の実態に合わせた指導ができた。児童生徒の実態や単元によっては、来年度も、学年・コースと調整をした上で出前授業を計画したい。 - 全体の学習会で各学部のキャリア教育やキャリアパスポートの押えを確認したい。 - 各学部の学習会に、キャリア支援課長が参加できるように計画したい。
	専門性をいかした授業の充実	「できた、分かったなど喜びのある学びができた」と答える児童生徒 90%以上 - 授業内で ICT 活用 1 回以上行っていると答える教員 100%	- 自身が指導上必要とする専門性向上に向けた職員同士の学び合いを実施した。 - 情報課員の担当児童生徒を事例児にし、ICT 機器の活用実践について学習会を実施した。	A A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% 教職員アンケート 97.3% - それぞれが必要とする専門性を高めること、また互いにそれらを共有することで、児童生徒の学びの支えに繋がったと捉える。来年度は、個々の研修ニーズに応じた学び合いを継続し、学校全体の研修ニーズを考察していきたい。 - 児童生徒の実態に応じた ICT の活用を伝えられた。

		・体育や音楽、図工美術等の授業に楽しく取り組むことができた児童生徒 90%以上	・掲示板で体育の授業実践を4回掲載した。 ・体育用具、楽器の教材情報を提供した。 ・スクールコンサートを複数回実施した。		・実態に即した内容で、個々に活用できるものではないので、使い始めた教員が更に活用できる工夫が必要である。 ・児童生徒が体育や芸術に関心を持てるように、行事を企画し、授業や教材の紹介などを行っていきたい。 ・文化的行事、体育的な行事を生徒の実態に合った形になるように考えていく。 児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7%
		・自身の実態に合った目標が達成できた児童生徒 90%以上	・流れ図研修会を3回実施した。教員の意見を取り入れ、「つながりタイム」の改定を実施した。 ・月1回程度、専門性を高めるための情報提供を、掲示板にて実施した。 ・自立活動の指導について専門家から指導を受ける機会を設けた。	A	・昨年度よりも児童生徒の実態を捉え実態に合った目標を立て、子どもへの働き掛けや支援を工夫できた。 ・来年度は、教員の意見を取り入れて改善を図った「つながりタイム」を全児童生徒実施し、流れ図活用の目的を達成できるように、活用状況を把握し、教員がより活用しやすいようにサポートを行う。 教職員アンケート 100%
		・個別の指導計画を授業に活用できたと答える教員 100%	・個別の指導計画の活用に関する研修を4・8・11月に実施した。夏季研修会では、各学部の活用事例の紹介を行った。	A	・設定した目標や指導内容を普段の授業に活用することができた。また研修を通して、個別の指導計画の作成手順や他の様式の繋がりについて共通理解を深めることができた。

(3) 〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	センター的機能の充実				
	児童生徒の学びと生活を支える連携の充実	・関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えられたと感じる保護者、教員 80%以上	学校、保護者、関係機関と連携するための会議や委員会等を実施した。 ①学校公開 1回 ②幼児教室（年長および年中） 5回 ③教育相談 21件	A	教職員アンケート 100% 保護者アンケート 98.4% ・必要に応じて関連機関と連携し、情報共有やケース会議を行うことができた。

			④関連機関とのケース会議・情報共有 11 件 ⑤校内支援委員会 2 件		・放課後等デイサービス及び相談支援事業所対象の学校公開を行い、本校の教育活動や児童生徒について理解を深められた。 ・児童生徒及び保護者の支援ニーズを把握し、関連機関と適切に連携していきたい。
イ	地域に根ざし、共生社会を構築する取組の推進				
	肢体不自由教育に関する情報発信、理解の推進	・学校間交流を楽しみにして共に学ぶことができた児童生徒 100% ・学校の活動が分かったと答える保護者 80%以上	小学部 葦山小、葦山南小と各学年 2 回以上交流した。 中学部 葦山中および長井崎小中一貫校と交流した。 高等部 田方農業高校と 4 回、伊豆中央高校野球部と 1 回交流した。 居住地校交流 希望者 19 名が、それぞれの居住地の学校の授業に参加した。 ・各学部で毎月 1 回以上ホームページを更新し、行事や学校での取り組みを情報発信した。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% 学校間交流について ・同世代の友だちと自分なりの方法で関わろうとする姿が多く見られた。今後も計画的に実施していきたい。 居住地校交流について ・肢体不自由児への理解を深めるために相手校へ出前授業に行ったり、事前打ち合わせを丁寧に行ったりしたい。 ・保護者へ交流の意義や良さを継続して伝えていく。 保護者アンケート 95.3% ・今後も計画的なホームページの更新、学校だよりの発行を通して、子どもたちの様子を発信していきたい。

(4) 〈高める〉教職員が互いに支えあう職場づくり

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	教職員の資質向上				
ア	学び続ける チーム 作り	授業参観を通し 情報交換がで きたと答える 教職員 100%	掲示板で授業予告や授 業の様子等を紹介して 情報を周知した。	A	教職員アンケート 96% - 授業参観は各学部のやり方で機 会を創出している。 「情報交換」とは授業を参観して 気付いた点や感想を伝えるとい うこと。同じ教科でも授業のやり 方や題材の扱い方に違いがある こと等に気付いたり関心を持っ たりすることで、教職員相互の高 めあいや子どもの成長に繋げて いきたい。

業務改善の推進				
イ	働きやすい職場環境の構築	・既存の書式やデータを共有し活用することで事務処理にかかる時間や労力を削減できたと答える教職員 80%以上	・共有フォルダの運用と活用の推進を呼びかけた。	A
				教職員アンケート 92% ・分掌を再編したため、各分掌の業務内容を整理している。教員数なども踏まえた仕事内容や仕事量にしていきたい。 ・データが増えてきたので、年度末に整理の呼びかけ、年度始めに使い方の周知を行い、整理したり、過去のをものを削除したりして使いやすいものにしていきたい。